

和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ 第8回（9月8日）開催記録

第8回目の「和歌山市中心市街地活性化基本計画（改訂版）策定のための市民ワークショップ」が、9月8日（水）午後6時30分より、和歌山市役所14階大会議室で開催されました。

今回のワーキングでは、今までのワーキングで検討した内容からファシリテータがまとめた事業案を、市民メンバー等に説明し、そのまとめ案について各グループごとに話し合いました。

グループ討議(ワーキング7)

前回までのワーキングでは、4つのグループがそれぞれ自分たちのグループテーマに沿って、中心市街地を活性化するための事業について考え、話し合ってきました。今回は、検討した結果出てきた事業をファシリテータがまとめ、そのまとめ案を各グループのメンバー(市民メンバー、協働スタッフ)に説明しました。

説明の後、メンバーからまとめ案に対する様々な意見等が出され、グループの提案としてより良いものとするための最終的な検討が行われました。

Aグループ(個店の魅力で人を惹きつけるまち)では、TMOの現在の体制やあり方について議論が集中し、まとめ案の中でTMOに関係する事業について修正を加えることとなりました。

Bグループ(お気に入りの風景やスポットのあるまち)では、今まで検討しきれていなかった事業の評価指標について、ファシリテータがたたき案として提示したものを材料に討議を行って考えていきました。

Cグループ(長い時間ゆっくり過ごせるまち)では、まとめ案の3つの事業について、再度、実現できるものであるか、実現するために何か問題はないかということについて意見を出し合い話し合っていました。

Dグループ(高齢になっても生き生きと暮らせるまち)では、事業案としてタウンモビリティが中心に検討されてきましたが、子どもや若い人を対象にした事業案を追加するというので、今までのワーキングで出していた他の案について再検討しました。



今回の討議を踏まえて、中心市街地活性化のための最終的な事業案を作成し、基本計画素案への提案といたします。

各グループの検討結果の詳細は次のとおりです。

Aグループ 「個店の魅力で人を惹きつけるまち」賑わい性創出ワーキンググループ

今回の議題	「グループ案のまとめ」	ファシリテータ 氏名	川崎 昌和
-------	-------------	---------------	-------

(検討結果)

今回のワークショップでは、これまでに考えてきた4つのアクションプログラムについて、「事業」としてのとりまとめを行いました。

このワークショップの前提である「今後5年間にできることを考える」について、実際に形として実行していくための方法論が大きな議論テーマになりました。過去の計画がなかなか実施されない中で、「TMOの体制強化をどうしていくのか」、「ここで議論したことの実現をどのように担保するのか」、「実現に向けては、もっと具体化した計画として出す必要があるのではないか」、「TMOの強化（もしくは別の主体の設立）をしないと、絶対に変わらない」など、所定のワークショップ時間を超える熱い議論となりました。TMOについては、各グループ全体に関わることですが、Aグループとしての提案としてTMOのあり方(コーディネイター・プロデューサーに徹すること)を盛り込んでいくこととしました。

また、「まちづくりのテーマ設定」に関しては、できればこのAグループのメンバーによって、実際のテーマを考えていこうという共通認識も確認されました。

サブテーマ別活性化事業 「個店の魅力で人を惹きつけるまち」 とりまとめ(案) Aグループ

中心市街地には、多くの「出演者」がいる！

1. 想定する中心市街地像

- それぞれの店が、「その店にしかない『魅力』」を持っている
きめこまやかなサービス、店の持つムード・雰囲気、店主の人格、独自の仕入れルート、お客さんへのアドバイス、「売ってる店」ではなく「買ってもらえる店」となっていること
- 各店主が『魅力』を付けるための努力を、自らの意志で継続している
各店独自の努力(勉強・スキルアップ)と、その向上心をサポートする関係者の取り組みが相乗効果を発揮している姿 ⇒ 関係性を深めている姿
(商店街全体の取り組み、TMOの取り組み、住民・市民の取り組み、行政の取り組み)
↓
その結果として…
- 中心市街地が、市民の「公共財＝市民の共有財産」となっている

2. 事業等

①まちづくりテーマ策定事業 ～皆が共感し、遵守できるまちづくりのテーマ設定～

- 事業概要
 - 和歌山市の中心市街地活性化を図る上での対外的なまちづくりのコンセプト(特徴)を決める。
 - 特に、若手商店主等による有志ワーキングを立ち上げ、新斬なキャッチフレーズを作成する。
- 役割分担
 - 住民 : オブザーバーとしてワーキングに参加
 - 市民 : オブザーバーとしてワーキングに参加
 - 商業者 : 主体的に検討を実施。確定したテーマ案について各店主との調整を行う。
 - TMO : 対市民アンケート等を実施し、テーマ案についての評価を得る。及びPR活動。
 - 行政 : テーマの遵守度合いを観測し、データ化(下記の指標を参考)。
- 事業を評価するための指標
 - (短期的には) 趣旨に賛同し、ワーキング等へ参加する店主の数
 - (長期的には) テーマに沿った活動(商店街環境や景観の整備、イベント等)の進捗度合い

修正⇒実際のテーマ案(アート等)を提案する

ルールを皆が守る！

②個店力アップ事業 ～多様な関係性の中で、個店力を向上させる取り組み～

- 事業概要
 - 店主の自動努力と、その周辺の登場人物によるサポートを包含した魅力向上の取り組み。
 - 特に、消費者の声・意見を店づくりに生かすことのできる仕組み(＝「友の会」と、商品・サービスの質向上を誘導する仕組み「逸品倶楽部」をつくり、運用する。
- 役割分担
 - 住民・市民 : 友の会への参加
 - 商業者 : 友の会及び逸品倶楽部のメンバーとして参画⇒消費者の声を反映させた「逸品」づくり
自主的な経営努力(マーケティング、商品構成見直し、店舗改装等) 共同勉強会開催
 - TMO : 友の会及び逸品倶楽部の事務局運営 / 「商人塾」の事務局運営
商店街全体のテナントミックス事業、不動産活用プロジェクト(既に構想中)
 - 行政 : 経営力向上のための専門家派遣制度、ファサード改装事業等(既存事業)
- 事業を評価するための指標
 - ブランドとして認知された店(名)の数 / 消費者意見が反映された取り組みの数 / 売上増加量

③TMOネットワーク拡大事業 ～実行委員会等による市民参加、イベント実施～

- 事業概要
 - 「商店主がTMOを使いたくなるような環境をつくる」ための体制強化プロジェクト
⇒独自事業による実績づくり、ネットワーク体制の強化(専門家や関心を持つ市民の参加を誘導)
- 役割分担
 - 住民 : TMO応援団として、TMO活動に有志参加
 - 市民 : TMO応援団として、TMO活動に有志参加「友の会」と運動
 - 商業者 : 市民企画の事業をTMOに持ち込み、事業共催者となる(市民イベント等)
 - TMO : TMO事業への協力(資金融通、場所提供等)
 - 行政 : 商業者とともに、市民へのPR活動を強化。有志ボランティアの受け入れ態勢を強化。
- 事業を評価するための指標
 - TMO活動への参画市民数(特に、リピートとして参画してくれる人々の数)
 - TMOによる関与事業実績 ⇒ 市民提案型イベント数等

修正⇒TMOのあり方については、事業としてではなく、別枠にて提案する。

④まちの新陳代謝促進事業 ～空き店舗対策等を検討する特命チーム～

- 事業概要
 - 空き店舗に関する現状の問題点把握とその要因分析を踏まえて、課題解決策を検討する特命チームを立ち上げ、数年以内に検討成果を出す。
 - 場合によっては、特定物件の所有者の協力を得て、所有と使用を分離した空き店舗活用の実証実験を行う。
- 役割分担
 - 住民・市民 : (特になし)
 - 商業者 : 特命チームを立ち上げて、主体的に検討を実施する。実証実験への協力。
 - TMO : 特命チームの事務局運営。実証実験の実施(テナントミックス事業と運動)。
 - 行政 : 特命チームへの参加。(行政の視点からの参画)
- 事業を評価するための指標
 - (短期的には) 特命チームの活動度合い(会合の回数、実証実験の進捗度合い)
 - (長期的には) 埋まった空き店舗数 / テナント等が入り替わった店舗数

新しい血を入れる！

Bグループ 「お気に入りの風景やスポットのあるまち」 限界性創出ワーキンググループ			
今回の議題	「グループ案のまとめ」	ファシリテータ 氏名	西川 昇
<p>(検討結果)</p> <p>今までのワークショップ内で話をしてきた内容を元にしてファシリテータが、基本計画に掲載される様式にしたがって素案を作成してきました。そして、素案の内容を確認した上で今回のワークショップで、Bグループから提案する事業は下記の5事業となりました。素案に沿って話を進めていきましたが、今までのワークショップ内で話をしきれていない内容もあり、その部分に討議は集中しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f7fa;"> <p>Bグループが提案する5つの事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> a) ふうけい.com 事業 b) まち風景 MAP 作成事業 c) まち風景問題解決事業 d) 規制整備事業 e) ハード整備事業 </div> <p>特に、事業効果などは、まだまだ考慮の余地があるので、まとめ案の提出期限ぎりぎりまでメーリングリスト上で意見交換をしていきたいと思います。</p>			



Cグループ

「長い時間ゆっくり過ごせるまち」回遊性・滞留性創出ワーキンググループ

今回の議題	「グループ案のまとめ」	ファシリテータ 氏名	片桐 裕明
-------	-------------	---------------	-------

(検討結果)

前回までのワークショップを踏まえた次の3つのまとめ案をファシリテータより説明しました。

①「青空ギャラリー」整備運営事業

1STステージで、アーケード下に展示棚・ベンチ・ファーストフード等を提供するモバイルユニットを整備、「絵画・写真・活け花・書道など各文化サークルの発表の場としての青空ギャラリー」を継続的に運営する。

②「滞留環境」整備誘導事業

2NDステージとして、「青空ギャラリー」に訪れた市民に「長い時間ゆっくり過ごせる快適な滞留環境」を提供するため、「水と緑に囲まれたオープンカフェ等」の整備を誘導する。

③「歩行環境」整備事業

3RDステージとして、ぶらくり丁を訪れる市民に「より安全で快適な歩行環境」を提供するため、隣接する2つの市営駐車場及び公園前のバス亭からぶらくり丁へ至るアクセス動線を「老若男女誰にも優しいバリアフリーな道路」として整備する。

説明の後、内容について意見をもらいました。主な意見は次のとおり。

- ・ 「青空ギャラリー」整備運営事業については、その中身をより深く検討する必要がある。検討母体となる発起人会の役割は重要。
- ・ 「滞留環境」整備事業の実現については、「市民参加意識の醸成」「人通りの増」が必要。また誘導事業についてはTMOとの調整が必要。
- ・ 上記に「歩行環境」整備事業をあわせた3事業は、三位一体の事業として進められるのが望ましいので、ステージという表現は適切でない。

以上の意見を踏まえてまとめ案を作成することとしました。



Dグループ

「高齢になっても生き生きと暮らせるまち」暮らし空間創出ワーキンググループ

今回の議題	「グループ案のまとめ」	ファシリテーター 氏名	鳥淵 朋子
-------	-------------	----------------	-------

(検討結果)

ファシリテーターから「提言案」を提示し、メンバーのみなさんからご意見をいただきました。Dグループの議論はタウンモビリティに特化したため、高齢者にとっては良い案がまとまりました。ただ「暮らし」をテーマで考えると、子どもや若い人の部分が抜けてしまっているのではないかという懸念もあり、ワークショップの初期段階で出てきた内容にフィードバックして、少しふくらみのある提案をしていく方向で合意形成しました。素案の項目は以下のとおりです。

ファシリテーター素案	最終案
a) タウンモビリティ導入事業	a) 和歌山ひだまりのまちづくり推進事業
イ) タウンモビリティを考えるまちづくり人づくり塾開催事業 ① タウンモビリティの必要性とその背景説明会 ② 受入体制づくり学習会 ③ 安全性と運転方法の講習会 ④ 学習会修了生による新しいコミュニティの形成	イ) タウンモビリティ導入事業 1) タウンモビリティを考えるまちづくり人づくり塾開催事業 ① タウンモビリティの必要性とその背景説明会 ② 受入体制づくり学習会 ③ 安全性と運転方法の講習会 ④ 学習会修了生による新しいコミュニティの形成
ロ) 店舗内バリアフリー化促進事業	2) 店舗内バリアフリー化促進事業
ハ) 電動スクーター配置(確保)事業	3) 電動スクーター配置(確保)事業
b) 愛と緑のまちづくり推進事業	ロ) 心のはしかけ推進事業 ① 趣味の会の開催 ② 小規模なギャラリー ③ おやじのたまり場
イ) フラワー玄関整備事業 ① 寄せ植えガーデンデザインコンクールの開催 ② 寄せ植え講習会	ハ) 子ども村づくり促進事業 ① 子ども店長参画のキッズフリーマーケットの開催 ② 街で遊ぼうドラマワークショップの定期開催 ③ サークラストフェスティバルの開催
ロ) 子育てイベント促進事業 ① 子ども店長参画のキッズフリーマーケットの開催 ② 街で遊ぼうドラマワークショップの定期開催 ③ サークラストフェスティバルの開催	ニ) わかやま里花づくり推進事業 1) フラワー玄関口整備事業 ① 寄せ植えガーデンデザインコンクールの開催 ② 寄せ植え講習会
ハ) クリエイティブサロン設置事業 ① 趣味の会の開催 ② 小規模なギャラリー ③ おやじのたまり場	2) 元気の素循環事業 ① 生ゴミからコンポストを



次回の予定

次回（10月6日予定）はワークショップの最後として、市民メンバーをはじめ総括コーディネータ、ファシリテータ、ワーキング協働スタッフが一同に会する合同会議を行い、市民ワークショップの集大成として、各グループからの成果発表を行います。